

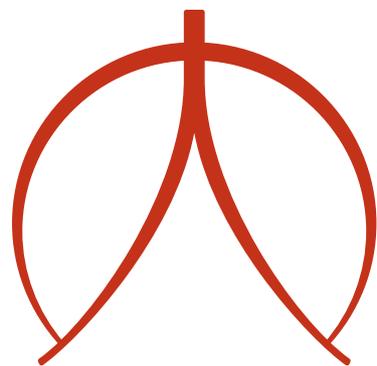
大谷大学広報

編集 大谷大学広報編集委員会

No.163

2005年11月5日

2005 秋



野外ステージの縁の下の力持ち、放送局

~~~~~  
あなたが最も笑った瞬間

学問のしおり

国文学40年

村上 學

国際交流トピックス

2005大谷大学紫明祭

谷大エリア散策

居酒屋 つじい

写真でふりかえる大谷大学今昔

尋源館と彼岸花

SQUARE

ヤバイ料理を立ち上げる

藤本 芳則

~~~~~

冬扇

フランスの哲学者フーコーの死から20年以上経ったが、最近「フーコーを忘れよう」とささやかれることがある。そこには、近年のグローバル化による変動が関わっている。彼が描いてきた近代西欧社会における「規律訓練型権力」のあり方は、フレキシブルで交渉に基づく管理が支配的となる世界にあってもはや適用できない、と言わなければならない。

ところがフーコー晩年の「統治」

という概念は、ポスト・フォーデイズム下の自己規制、社会福祉の削減、新自由主義的市場原理の支配、あるいは学術研究の評価・監査など、今日の社会経済、政治的な現象の核心を説明するために不可欠となりつつある。そもそも統治とは、近代西欧的な権力作用についての考え方であり、人びとの行為をある範囲の自由を確保しながら導いていく手法である。

しかしフーコーにとって、統治という行為は他者に対して及ぼす

ばかりではなく、むしろ自己に向けられる場合こそが重要である。自己の統治に専心し自己への配慮を徹底させることによってこそ他者の理解に到達しそこに連帯できると考えた老フーコーは、確実に仏道に近づいていた。

私たちにとってフーコーは結局、忘れようにも忘れられない存在となりつつある、と言った方がよいだろう。

(田辺 繁治)

あなたが最も笑った瞬間

～笑う門には福来る～

阪神タイガースがリーグ優勝をきめた9月29日の夜、大阪の街は歓喜の渦に包まれた。「笑いたい、今夜は大声で笑いたい」とテレビで感きわまって叫ぶファンの姿。笑うことは健康にもいい。寄席^{よせ}にきた客は、話者のパフォーマンスがさほどおもしろくなくても、クスクス、ゲラゲラと笑う。なぜ笑うのか？ 気持ちよくなりたいから笑う。健康になりたいから笑う。笑えばやがて本当に楽しくなってくる！

「笑う門には福来る」とか。……あなたは最近、大笑いしたことがありますか？



笑いを「演じる」

藤本 和也

私は大学に入学してまもなくその生活のあまりの退屈さに耐えきれず落研つまり落語研究会に入った。とくにお笑いが大好きだったというわけではなかったが、ただ何となく変わったことがしてみたかったのだ。実際に入部してみると自分の想像を超えた世界があった。

私は入部して以来、落語、コント、漫才、大喜利などお笑いをいろいろと演じてきた。ただそのお笑いを「演じる」立場と「見る」立場のあまりのギャップに驚かされた。人は笑う時、とても感情的で素直である。しかしながら演者は人を「笑わす」その一点を追究し、試行錯誤す

る。おかしいことを真剣に考えて、恥ずかしいことを何度も練習したりもする。決して楽なものではなかった。どんなにおもしろいネタが書けたとしても演じ方一つで大きく変わるし、人によって笑いのツボも異なり、お客の雰囲気も笑いに関わってくる。たった数分のネタを作りあげるのに何日もかかり、しんどいことばかりだ。けれど舞台上で客席からドッと笑いが起こった時、今までに感じたことのない満足感に包まれる。

昨年の12月、落研恒例の学外寄席を行った時に私は初めて落語をした。静かだった会場は落語が進むにつれ盛り上がり、私

は次の聞かせどころでは、どれ程うけるかを考えてワクワクしながら演じていた。その瞬間、笑いを通して会場との一体感を得ることができ、同時に笑いをとる喜びを初めて感じた。私の性格は暗く、人と話すのも苦手である。でも、お笑いでなら明るくも、羽目を外すこともできた。ネタの中では警官だったり、医者、政治家、女の子にだってなることができる。私の明るさは、あくまで紙に書かれたネタ上の性格で舞台の上だけのものだ。けれど、お笑いを通して客席はその作りあげられた自分を受けとめてくれた。単に観客の笑いをとることが嬉しかっただ

けでなく、お笑いの自由さ、可能性、そして自分を表現する一つの場として興味をもった瞬間だった。

最近はお笑いブームと騒がれ、様々なお笑いを目にする機会が増えている。単純に見て、笑って、楽しむのも良いことだと思う。ただお笑いは、「見る」と「演じる」との違いによって見方も楽しみ方も大きく変わっ



大喜利という笑い

三宅 瑠美

駆け足のように忙しく過ぎ去っていく日々の中でお腹を抱えて笑うことは少なくなってきているかもしれない。今年も、あつという間に秋になってしまった。そんな日々を過ごす中で私がゲラゲラと笑ってしまうテレビ番組が毎週日曜日にやってくる。午後5時半私はテレビの前に陣取ってあの番組を見ている。笑点である。「♪チャンチャカチャカチャカ、チャンチャン」が聞こえると、とてもわくわくしてしまう。もの心がついたときから家族全員で放送を見続けている。

前半の演芸もおもしろいが、やはり大喜利が一番の楽しみである。司会者の円楽さんを筆頭に個性的なメンバーがずらりと並び、季節の事柄や世の中の旬

てくる。お笑いという皆が大好きで、皆が楽しめる、その作り手というのは最もお笑いを愛し、楽しめる存在である。何よりも「笑う門には福来る」この言葉通り、「見る」「演じる」立場が違ってもお笑いを通して、いつも笑っていたい。

(ふじもと かずや)
(社会学科 第2学年)

な話題を取り上げてお題に応じたおもしろい回答を披露していく。ひねりを利かしたおもしろい答えや、なるほど!と思えるような答えなど、ひとつのお題に対してたくさんの回答があって楽しい。しかし、真面目な回答よりも悪ふざけをしたような回答や、親父ギャグのような回答のほうが私は好きだ。ふふふっと自然に笑みがこみ上げてくる。自分の笑いのつぼを確実に押さえられたような感じがするのである。父や母と共に「座布団〇枚!」と笑いながらおもしろさを独自に評価している。

様々な回答の方法で、私が一番好きな回答は他のメンバーを罵倒するネタである。一見仲の良さそうな笑点のメンバーだが、このネタになるとかなり激

C O N T E N T S

- p. 2…あなたが最も笑った瞬間
～笑う門には福来る～
- p. 8…CAMPUS☆TOPICS
- p.17…学問のしおり
- p.18…国際交流トピックス
- p.24…2005大谷大学紫明祭
- p.26…Keiji☆Ban
- p.29…学生相談室から
- p.30…谷大エリア散策
- p.31…写真でふりかえる大谷大学今昔
- p.32…研究室だより/学会だより
- p.34…出版物紹介
- p.35…大谷中学校・高等学校
九州大谷短期大学からのお知らせ
- p.36…SQUARE

表紙のこぼれ

音響よし!照明よし!
舞台という白のキャンパスに
地塗りをほどこす
優しい目をした緑の下の力持ち

一魂のこもった青春は、そうたやすく減ってしまうものではない—
ハンス・カロッサはそう述べた
舞台のみなざる魂に観客が呼応する
輝かせよう、この秋一番の魂

冬扇

詳しくは「夏炉冬扇」という。夏の炉や冬の扇のように役にたたぬことの意味に用いる。ここでは役にたつたない次元をこえて一筋の道に生きる精神をあらわす。

2005年11月5日発行
発行 大谷大学企画室
編集 大谷大学広報編集委員会
〒603-8143
京都市北区小山上総町 大谷大学企画室内
電話 (075) 411-8115
FAX (075) 411-8149

しい合戦となる。例えば円楽さんに対する馬ネタや、木久蔵ラーメンのネタなど回答者それぞれが持っている。特に歌丸さんと楽太郎さんの罵倒合戦は爆笑だ。「ハゲている」や「腹黒い」など普通では禁句とされている言葉をズバズバと相手に切り込んでいく爽快さがたまらない。

しかし実生活でも仲が悪いという訳ではないだろう。むしろ相手を認めているからこそ言い合いができるのだと思う。

私たちの日常生活でも同じようなことが言えるのではないだろうか。親友なら言いたいことを言いあえるはずである。そして「これは一本とられたな」と

感じたならば、「座布団〇枚！」と言いながら腹の底から笑いあえる友達をたくさん作っていききたい。そうすれば忙しすぎる日常もゲラゲラと笑う楽しい日々となるはずだ。

(みやけ るみ)
史学科 第4学年)

ガンジーとサッチモの笑顔

井上 尚実



笑いにもいろいろ種類があるが、私が好きなのは、ある情景や情況に思わずニコリしてしまうようなささやかな微笑みである。漫才や落語を聞いて腹を抱えて笑うのも健康に良さそうだけれど、笑い終わった後に空しい感じが残り、持続性に欠けるような気がする。その点、猫や赤ん坊のちょっとした仕草や表情に誘われて起こるような微笑みは、明るい気持ちが広がり、余韻があっていい。風に舞う枯葉や台所の野菜クズを獲物に見立てて戯れる子猫や、ピアノへの華麗な跳躍に失敗して滑落し、何事もなかったかのように後脚を舐め始める猫を目撃する機会に恵まれたりすると、思わずニコツとして、しばらくは心が軽くなる。

このような微笑みの生まれるきっかけは、日常の中に転がっ

ているが、偶発的に向こうからやってくるものであり、人為的に作り出したのでは効果が半減する。締め切りを過ぎて原稿が書けなかったり、失敗に落ち込んで心が沈んでいるときなどに、思いがけず遭遇する微笑ましい光景は、雲間から現れる月や陽の光のように気持ちを明るくしてくれる。そこで微笑むことができれば、事態を別の視点から捉え直して、何とかやっていけるような気がする。

このような微笑みの源に対する感受性は、苦しみや悲しみによって必ずしも鈍化しない。それは、戦争や地震などの災害からの復興を報道する映像の中に、ときに子どもたちの印象的な笑顔が見られることにも明らかである。そのような状況に置かれると、多くの大人は沈鬱になり眉根に皺を寄せたりしがちであ

るが、そこに微笑みが生まれれば、その明るさが周りにも広がる。マハトマ・ガンジーのドキュメンタリー・フィルムの中に、年老いて痩せ細ったガンジーが、小さな子に「高い高い」をして微笑む感動的なシーンがあるが、その抜けた前歯を剥き出しにした笑顔には、周りに伝染するような輝きがある。差別や暴力の厳しい現実に向かいながら、ガンジーは最後まで微笑みを忘れなかったのである。

世界を明るくする笑顔という点で、もう1人忘れられないのがルイ・アームストロング（サッチモ）である。ショービジネスの世界に進出した黒人ジャズマンの草分けとして、差別や苦難も人一倍経験したであろうサッチモだが、彼の歌と演奏には、たとえ苦悩や悲しみに溢れていても、この世界とすべてのいの

ちを肯定して生きようという思いがこもっている。現在もよく聴かれる「この素晴らしき世界 (What a Wonderful World)」や、「あなたが微笑むとき (WHEN YOU'RE SMILING)」というタイトルの次の曲は、特に心に響く。When you're smilin'....keep on smilin' The whole world smiles with you And when you're laughin'....keep on

laughin'
The sun comes shinin' through
But when you're cryin'.... you bring on the rain
So stop your frownin'....be happy again
Cause when you're smilin'....keep on smilin'
The whole world smiles with you
とかく哲学や仏教・真宗という、苦虫を嚙みつぶしたよう

な暗い顔になりがちであるが、ガンジーやサッチモの微笑みを少しでも見習えたらいいなあと、思うこの頃である。

(いのうえ たかみ)
専任講師 真宗学)

WHEN YOU'RE SMILING
Words & Music by Mark Fisher, Joe Goodwin, Larry Shay
©1928 (Renewed 1956) by MILLS MUSIC, INC.
All rights reserved. Used by permission.
Print rights for Japan administered by YAMAHA MUSIC FOUNDATION
♪JASRAC 出0514418-501♪



笑顔の法則

井関 雅恵

私の卒業研究のタイトルは「セサミストリートの魅力」である。セサミストリートは「世界中の子どもたちに教育の機会を」というスローガンの下、1968年にアメリカで生まれた人形やアニメを使った教育番組だ。セサミストリートは子どもの視点で物事を考え、国境や文化の違いを越えて、子どもたちに豊かな笑いを与えている。

笑ってられること。これが幸せの象徴である。また、笑顔の持つ力は多大だ。

誰しも子供の頃から現在に至るまで、あらゆることに対して、数え切れないほど笑っている。しかし、私の笑うポイントに対して「何がそんなにおもしろい？ばか笑いして、いつまでも笑って！」と言われることが多々ある。確かに改めて笑って

いる内容に対して、そう尋ねられると答えられないことが多い。笑いのポイントはバラエティ豊かだ。そして、セサミストリートには、バラエティ豊かな住民がいっぱいだ。ひとりひとりに異なるパーソナリティがあり、笑いがある。セサミストリートの登場人物にアーニーとバートという、いつもペアで登場する2人がいるのだが、2人のボケとツッコミの応酬は見ている者を温かい笑いで包んでくれる。アーニーは自由で楽天的、物事を説明するのが得意であり、いつもバートをからかってばかりいる。しかし、注目すべき点は、バートが傷つくようなことを笑いには決してしないことだ。バートもアーニーにからかわれてはいるが、いつも笑顔で応え、弟であるかのようにア

ーニーを思っている。時には、そのからかいを「おいしい」とさえ感じているのではないだろうか。私にも、私がアーニーであるとすればとバートのような関係の仲良しの姉がいる。私の子供の頃の夢は「うさぎ」になることであった。おそらく動物が大好きであり、うさぎは小さくてかわいいからだと思う。私はこの夢を忘れていたのだが、このあいだ姉が「そんなことを言ってたよね」と笑顔で話してくれた。大笑いをしてしまったが、同時に真剣に叶えられる夢であると信じていた自分を思い出した。他人にとっては、くだらないと思えることで、共に笑いあうことはとても大切だ。笑いを共有できることは、豊かなことではないだろうか。そして、目や耳を覆いたくなる様々な問

題を抱えている現代社会において、子どもの教育にはもちろん、私たちに必要なものが笑いである。私は、笑顔が幸せを運んで

くると考えている。だから、これからもとびっきりの自分だけの笑顔と笑うことを失わずに生きて行きたい。

(いせき まさえ)
文化学科 第2学年)

笑いは元気の源 (みなもと)

本田 求



私が腹を抱えて笑ったのは、かれこれ25年ほど前に遡る。学生であった私は、わずか10インチの小さな白黒テレビを先輩から譲り受け、毎晩遅くまで見入っていた。日付が変わる頃、朝日放送で放送していた「枝雀寄席」という番組を欠かさず見ていた。番組名からもわかるようにメインの出演者は、故 桂枝雀である。独特の喋り口調と表情で聴衆を笑いの境地に誘い込んでいた。

数ある上方落語の中で「落語ならこれが一番」というのが「地獄八景亡者戯」である。この噺は、彼の師匠である桂米朝が復活させたもので最後まで上演すると1時間以上にも及ぶ長編落語である。したがって、寄席においてもあまり演じられることはない。

ストーリーは大きく分けて2つに分かれる。鯖にあたった主人公？らしき者が地獄へ辿り着くまでの部分と、地獄に着いた後いつの間にか主人公が4人の亡者になって地獄巡りをする部分である。この4人の亡者は、

生きていた頃は山伏・医者・歯医者・軽業師なのだが、彼らが持つ得意技によって、釜ゆで・針山などの地獄を難なくクリアし、怒った閻魔大王が人呑鬼じんどんきという鬼に食わしてしまう。しかし人呑鬼の腹の中で暴れまくり、苦しんだ人呑鬼が「大王を呑んで下してしまうのや」と閻魔大王に言って終わる。これがサゲ=オチである。その昔下剤として服用された「大黄」と「大王」をかけているのである。

これだけでもおもしろいのだが、更に輪を掛けて、歴史上の人物を登場させる。地獄には、「御堂筋」ならぬ「冥土筋」があり、そこに「地獄文化会館」という建物があって「文化講演会」が開かれている。講演者は、三島由紀夫・太宰治・芥川龍之介・川端康成などの著名人。また、念仏を買う町、「念仏町」には、法然・親鸞も出てくる。その他日蓮やキリストまでもが登場する。これ以外にも、今は亡き歌舞伎役者・噺家なども登場する。

生きている者が行ったことがない地獄という世界をオモシロオカシク、時事ネタも絡ませて演じるこの噺は、実は幼児向けの絵本にもなっている。『じごくのそうべえ』という題であるが、これを読んだだけでも、つい噴き出してしまうこともある。

また、お隣り韓国から「微笑みの貴公子、ペ・ヨンジュン」が来日するたびに、奥様方の追っかけが始まる。彼の微笑みは、奥様方に元気を与え、普段足が痛いお婆ちゃんまでもが空港内を走り回って、キャーキャー言っている。この光景を見ていると私も思わず笑ってしまう。彼の微笑みは、女性だけでなく、男性をも癒すのであろうか。

何かと暗いニュースばかりの現代において、「笑い」はモヤモヤしたものを払拭してくれるもの。だから、人は「笑い」を求め、いろんな苦難に立ち向かえるのだろう。

私も仕事柄、高校生と接することが多い。緊張した面持ちで来談する彼らに笑顔で接し、1

回でも笑って帰ってもらえるよう心掛けています。そうすれば、彼らもきっと元気が出てくるは

ず。なぜなら、「笑いは元気の源」であるから…。

(ほんだ もとむ)
(入学センター 職員)



心和む日常の笑い

村瀬 順子

この夏休み、大学生の娘がクラブの合宿で飛騨高山に行くことになった。「バスが長岡天神から出てる」と言う娘の口元を見ていたら、前歯が出ているのに気を取られて「そう、長岡天神から歯が出てるの」と言ってしまう、気がついて二人で大笑いした。これは今思い出してもいつでも笑えるエピソードで、当分の間、笑いの種になるのではないかと思う。笑いの壺にはまると私は声も出ないほど笑いこけるので、よく子供たちからは気持ち悪がられる。しかし、何が原因で笑ったのか思い出せない。多分、ちょっとした相手の仕草や表情の面白さだったり、言い間違いや話の食い違いといった、たわいもないことがもとになっているせいだろう。原因はともかく、笑ったときの爽快感だけでなく、日頃、運動と縁遠い生活を送っている者にとっては、その腹筋運動は正に砂漠に水(?)である。日常生活において笑いはやはり必要だと実感する。

今となっては遠い昔の思い出

だが、日本の大学を卒業してイギリスに留学した時、大学の授業が始まって三ヶ月ほどはまったく笑えない日々が続いた。欲張って大学院の修士のコースに入ったはいいが、ほとんどの学生が年長者で、中にはすでに大学で教えているような人たちもいた。セミナーでのディスカッションも内容が難しくとてもついていけず、ましてや気軽に入って行けるような雰囲気では到底なかった。ばかなことをわざと言ってみんなを笑わせるような人もなく、その場の空気全体が緊迫していた。極度の緊張は大学の寮に帰ってからも解けることはなく、食事のときも談話室でしゃべっているときも、正に顔も引きつる状態だった。笑えるようになったのは、秋学期が過ぎて、ようやく冬休みに入った頃だったと思う。その後大学での授業では、張り詰めた雰囲気が続いてきたが、親切にしてくれる知人や友人も少しずつできてきた頃から気持ちがほぐれていき、笑う余裕も出てきたように思う。特に私をまるで

娘のように可愛がってくれたペイン夫妻との出会いは、その後の留学生生活を大きく変えることになった。ペイン氏はイギリス人らしいユーモアに溢れる人で、気の利いた言い回しで人を笑わせるのが大好きだった。‘Jolly good!’ (実に結構!) と言ってにこにこしていた顔が今でも目に浮かぶ。面白い表現も教えてもらった。ご馳走になっておなかが満腹になったときの表現として ‘I am FTB (= full to the brim).’ (縁まで満杯) や ‘TTT (=Tummy Touching Table)’ (おなかがテーブルに付くくらい満腹) などはペインさんのオリジナル表現ではないかと思う。いずれも人を爆笑させるようなものではないが、気取らない表現で気持ちを和ませにつくりさせる効果がある。私もそういった心和む「笑い」を日常生活の中で絶やさないようにしたいと思う。

(むらせ よりこ)
(教授 英文学・英米文化)

CAMPUS★TOPICS

村井英雄先生を偲んで



文学科・国文学分野教授・村井英雄先生は、ご闘病のかいなく、8月7日午前4時、脳内出血のため急逝されました。享年61歳。

先生は、夏休み直前まで治療を続けながら毎週火曜日に出校され、近代文学ゼミの授業をしておられました。後期もゼミ1コマだけは授業したいと言っておられ、必ず病気を克服されるものと信じておりましたのに、あまりにも突然のご逝去であり、ただ驚き悲しむばかりであります。

先生は27年間、毎日新聞社に勤務されましたが、京都・福井・奈良支局を経て、学芸部で文学を担

当され、後に学芸部編集委員・編集部編集委員を勤められました。その後、1996年4月に本学文学部助教授として就任され、近代・現代文学の授業を担当いただきました。

先生のご研究は幅が広く、限られた紙数で紹介できませんが、代表的なものは高橋和巳と司馬遼太郎の研究です。ご著書は、『闇を抱きて 高橋和巳の晩年』『書誌的・高橋和巳』『日本を知る・司馬遼太郎』など多数あります。

先生は、学生に対して常に近代文学研究の厳しさを口にされ、熱心に指導してくださいました。特にゼミ学生には授業時間外にも研究室で資料を提示して、懇切に指導されました。卒業論文の諮問の席では、根拠のない論について「この部分は一体本文のどこに拠っているのですか」などと厳しく注意されました。

先生の「歯に衣着せぬ」ご指摘は痛快でした。なかなか自分の主張をはっきりできないものです

が、先生はどのような問題に対しても明快に発言され、導いてくださいました。

先生のエピソードは多いですが、本学に着任されて間もないころ、100名を超える国文学講義の教室で私語を止めない受講生に対して「君たちは大学生か、おれは子守にきてるのとちがうぞ」と一喝され、その後は学生に「怖い村井先生」と一目置かれました。学生からは厳しいけれども、親身になって指導してくださる先生として信頼されていたようです。ゼミの学生以外の者も先生の研究室を訪ねて、よろず相談していたと聞いています。

再び教壇に立つことを願っておられた先生のお気持ちを思いますと急逝されたことは残念でなりません。無常の習いは世の常とはいうものの哀惜の念を禁じえません。

10年近く本学に勤務され、常に愛情をもって学生に接してくださいました先生に深く感謝申し上げます。(石橋 義秀)

坂本弘先生を偲んで



本学名誉教授坂本弘先生が9月19日午前10時25分、ご逝去されました。享年92歳でした。

先生は5年ほど前から入退院の生活を余儀なくされ、今次はご家族

の献身的な看病にもかかわらず、その詮なくご還浄なされたのであります。

坂本先生は1936年3月に本学文学部宗教学講座鈴木大拙先生のゼミをご卒業になり、1942年3月に本学研究科を修了されると同時に、本学研究室助手に任ぜられました。そして先生は、1954年4月に本学教授に命ぜられ、1979年3月に定年退職をされるまで、図書館長、学監・文学部長、大学院文学研究科長などほとんどの要職を歴任され、大谷大学のために多大なご尽力を下されたのでありま

す。特に、1949年から30年間本学哲学科宗教学講座のゼミを恩師大拙先生の後任という重責を荷って、担当されてこられました。その間、多くの学生が先生の教えを受けゼミを巣立っていきましたが、先生の学生に対する教育・指導方針は一面では厳正さを、他面においては各人の自由な精神を尊重し、自立を促すことを宗とされたように思われます。演習や文献研究でのテキスト講読における学生の拙い訳・誤訳に対する先生の容赦ない訂正や指導の厳格さ、また卒業論文の題目決定や口頭試問



の折には、「簡にして要を得た応答」を学生に求められるなど、厳しい態度で接せられることもしばしばありました。しかし先生のそうした厳しい指導にも拘わらず、むしろそうした点に心を引かれ自ら求めて先生のゼミを専攻した学生も少なくなかったのであります。それには、先生が「些事にこだわらない、自由で闊達な創造的精神」を愛され、自らも求め、学生に対してもそのような生き方を願っておられたからではないかと、近頃以前にも増して想うようになりました。先生のこうした教

育や指導の根本には先生ご自身が学生のころから傾倒され永年に亘って深大な薫陶を受けてこられた恩師大拙先生の感化が少なからずあったのではと推察されます。

先生は本学の宗教学では神秘主義、宗教経験の諸相、実存思想、鈴木大拙先生の仏教・禅思想などを中心に授業をされたのでありますが、ご自身の研究領域においてもそれと軌を一にしておられ、主著・主要論文としては『禅学への道』（翻訳）・『教えと応答』（翻訳）、「エックハルトの神秘主義における中心問題」、「名への古代的

信仰」、”Daiei Kaneko: The Meaning of Salvation in the Doctrine of Pure Land Buddhism”など、他にも多数あります。

ご存命の本学名誉教授中、最長老であられた坂本弘先生がご逝去された今、私たちは本学の長い歴史の潮流の中でひとつの大きな時代転換を痛感せずにはおられません。先生のこれまでの多大な学恩と本学へのご尽力・ご貢献に対して衷心より深謝申し上げるとともに、ここに哀惜の念をもって坂本弘先生をお慰み致します。

(築山 修道)

佐々木教悟先生を偲んで



謹んで、大谷大学名誉教授・佐々木教悟博士の在りし日を偲びつつ、長い間、大谷大学あるいは宗門のためにご尽力いただいたことに感謝申し上げます。傘寿というご高齢にもかかわらず、ついこの前まで、同窓会や宗門関係の会合に元気なお姿でご挨拶を賜ったのに、2005年9月29日に逝去され、もうそのお姿を拝見することができなくなりました。法名は泰斗院釈教悟と申されます。

先生は、1942年大谷大学研究科を修了になり、1946年まで3年あまりバンコクに留学されました。その間、上座仏教の比丘として出家された貴重な体験もされまし

た。帰国後、大谷大学で専任講師、助教授、教授として、インド東南アジアの仏教史や律蔵に関する講座を担当され、研究と教育に専念されました。その間に文学博士の学位も取得されています。大学の行政職としても、学生部長、短期大学部長、学監・文学部長などの要職を兼任され、学界・大学運営両面に大きな貢献をされました。

また、真宗大谷派宗門においても「講師」として、安居の本講を勤められ、宗門学界の中樞である董理院の院長や真宗宗教学学会会長という要職を今日まで果たされ、絶大な貢献をなされました。

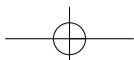
先生の学問的業績としては、『シルヴァン・レヴィ インド文化史』（共訳）を嚆矢として、アジアの仏教史文化史に関する著作が数多くあり、ことに『戒律と僧伽』『上座部仏教』『インド仏教』の三部作は、先生の学問研鑽の集積として高く評価されているものです。この他、宗学に関しても、安居本講で講述された『顕浄土方便化身土文類講讃』『顕浄土真実

信文類』は、董理院董理としての本領を發揮された労作であります。

私事にわたって恐縮ですが、筆者が先生のご講筵に初めて列したのは、もう今から45年ほど前の文学部3回生の時だったと思いますが、温厚でわかりやすく、親切な講義であったと記憶しています。また近年、先生のご自坊正覚寺の属する京都教区近江第九組主催の講演に行った際には、先生は自転車で会場に來られ、片隅で教え子である私の拙い講演にじっと耳を傾けてくださっておられました。冷や汗をかくと同時に、その謙虚さに感服したものです。

先生のご逝去は大谷大学や宗門にとって、まさに「巨星逝く」の感があり、先生のご薫陶を受けたものの一人としてまことに寂しい限りであります。この度、お浄土に帰られるに当たり、先生に深い感謝の念をもって、謹んで哀悼の意を表するものであります。

(吉元 信行)



人事

退職

[教育職員]

村井 英雄 (教授・文学部)

2005年8月7日付

採用

[事務系嘱託]

松井 真琴 (入学センター)

2005年10月1日付



留学生文化交流会開催

7月2日(土)、2005年度第1回目の留学生文化交流会を開催し、外国人留学生を含む31名の学生が参加しました。今回は安田念珠店のご協力を得て念珠を製作し、その後、東本願寺の御影堂御修復工事状況を見学しました。

はじめに、東本願寺の飛地境内地である渉成園(枳殻邸)を会場として、安田念珠店の長澤さんより、念珠の起源や宗派別の念珠の形状・使いかたの特徴などのお話を聞かせていただきました。そのあと各自が念珠を製作しました。

二人一組となって紐を通す作業や、最後に紐を編んで結ぶところなどが難しく、参加者は皆苦心しました。それでも日本人学生と留学生が互いに協力し、和気あいあいとした中で完成にたどりつきました。

午後からは東本願寺に移動し、各自が製作した念珠を持って阿弥陀堂に参拝しました。

次に御影堂御修復工事状況を見学し、世界最大の木造建造物が長い年月を耐え抜いてきたのを目の当たりにして、参加者は感嘆の声を

上げていました。また、工事で取り外した膨大な瓦の一部を、雨水を利用して洗うという体験をしました。参加者は改めて日本文化・歴史を再認識することができました。(学生課)



念珠製作の様子

仰木の里子どもフェスタに参加



水鉄砲づくり

8月7日(日)、大津市仰木の里市民センターにて、第7回「仰木の里子どもフェスタ」が開催されました。このイベントは、子どもたちの「生きる力」を育む環境充実のため、家庭、学校、地域が連携し子どもたちの教育支援を行うものです。

「仰木の里子どもフェスタ」の体験活動に本学が協力し、中森一郎

教授による水鉄砲作り、箏曲部・尺八部有志による演奏会と体験実習、空手道部による演武と稽古体験が行われました。水鉄砲は、夏の暑さも手伝って、用意した竹材130名分が午前中でなくなってしまふ盛況ぶりです。中森先生と協力に駆けつけてくれた老人クラブのメンバーは子どもたちに囲まれて大忙しでした。また午後からは、



琴を弾いてみよう



空手体験

約60名の子どもたちと保護者が、箏・尺八の見事な演奏を楽しんだあと、実際に箏・尺八にふれ、簡単な演奏体験を行いました。そして空手道部の気合十分の演武後、子どもたち、父母兄弟の方々も一緒になって基本稽古、型稽古を体験しました。子どもたちにとって、レベルの高い大学生の技術・精神にふれる機会となりました。

(教育研究支援課)

区民力 フェスタ2005に参加

9月4日(日)「区民力 フェスタ 2005」が北文化会館にて行われ、本学児童文化研究会が人形劇の上演や子供たちと手遊びをし、イベントを盛り上げました。またメイン会場の各種コーナーにおいて、昨年末、本学で開催された「紫明 近隣 昔の写真展」に展示された

写真約160点を取めたCD-ROMの紹介、また北区役所と合同で写真の展示を行いました。このフェスタは、北区50周年を記念して地域住民と区内の4大学の学生との連携により催され、幅広い年代の方々に会場は賑わっていました。

(企画室)



人形劇の上演

大谷学会研究発表会開催

10月20日(木)午後1時より、響流館3階のメディアホールを会場として、大谷学会研究発表会が開催されました。発表30分、質疑応答10分という限られた時間内の研究発表でしたが、前もって用意された発表資料に基づきながら、4名の発表者が日頃の研究の一端を発表されました。また、学外からの参加者も多く、活発な質疑応答がなされました。今回の発表内容は、例年通り『大谷学報』に掲載される予定です。なお、題目・発表者は次の通りでした。

ベルクソンの形而上学

鈴木幹雄教授

東北淪陥期文学の一側面

一疑遅が描いた“満洲国”を中心に

李青助教授

「遊び」の臨床心理学的意味について—人生の後半に注目して—

谷口奈青理助教授

親鸞『観阿弥陀経集註』研究序説

三木彰円講師

(大谷学会)



研究発表の一場面

文藝学会公開講演会開催

毎年、七夕の時期に国文学・中国の教員が協力して公開講演会を開催していますが、今年は7月5



阪口弘之先生

日(火)午後1時より響流館メディアホールで開催いたしました。

国文学の講演として、学外から神戸女子大学教授・阪口弘之先生をお招きしました。先生は、「近松研究の軌跡—近松生誕350年祭をふりかえって—」という講題で、近松の戦後研究史を回顧するとともに、今後の課題について、学生にも理解できるよう懇切にお話ししてくださいました。

中国文学の講演として、本学・乾源俊教授が「李白について私が知っている二、三の事柄」という講題で、李白像について詳細な資料を使って新しい見解をわかりやすくお話いただきました。この講演につきましては『文藝論叢』第65号に掲載する予定です。

猛暑の中、多数の方々が参集くださり、熱心に聴講され、充実した講演会でした。(石橋 義秀)

特別展「ファウスト 伝説と作品ーフランクフルト・ゲーテ博物館の名品ー」開催



オープニングセレモニー
アンニャ・ハーター氏挨拶

特別展「ファウスト 伝説と作品ーフランクフルト・ゲーテ博物館の名品ー」を10月1日(土)より23日(日)まで開催しました。また一般公開に先立ちまして9月30日(金)には、ドイツ連邦共和国総領事館副領事のアンニャ・ハーター氏、フランクフルト・ゲーテ博物館部長のペトラ・マイサク氏といった、多くの来賓を迎えてのオープニングセレモニーが挙行されました。

本展覧会は「日本におけるドイツ年」の協賛企画として、フランクフルト・ゲーテ博物館との共催で、ドイツの偉大な詩人ゲーテの代表作『ファウスト』を取り上げ、その成立過程と背景、および第1部のストーリーをフランクフル

ト・ゲーテ博物館の名品によって紹介したものです。出品作品には、ゲーテ直筆の原稿やペン画、シューベルト直筆の楽譜など、その多くは日本初公開となる大変貴重なもので、今後、公開予定のない作品も含まれるなど、内外で注目を浴びました。

今回の展示は、はじめてすべて他館、しかも海外からの出品で、その内容もこれまでとはまったく異なるものとなっています。その意味で開館3年目を迎えた博物館にとって、今後の一層の飛躍を意識した大きな試みでもありました。

会期中には記念講演会と記念コンサートが開催され、また学内食堂ではドイツフェアとしてドイツ



記念コンサート「ドイツリートの調べ」



展示室内風景

料理が出され、いずれの関連イベントも大変ご好評をいただきました。

3週間という短期間の会期ではありましたが、3300人以上のたくさんの方の来館者で会場はにぎわい、盛況のうちに会期を終えることができました。

(宮崎 健司)



大垣書店本店協カイベント
「ファウスト」フェアの様子

文化学科スピーチコンテスト開催

2005年7月13日(水)、短期大学部文化学科主催の第5回スピーチコンテストが短期大学部長築山修道教授ご出席のもと、開催されました。会場は響流館メディアホール、時間は午前10時40分～午後2時20分、参加学生は約110名。「日本語表現Ⅱ」の書き方、話し方の授業の総仕上げとして、クラスごとに2名の代表者が選ばれ、合計12名が約5分の持ち時間で熱弁をふるいました。スピーチの内容は実に様々で、チベット旅行の恐怖の体

験を生々しく語った方、ケータイについてのこだわりや手にしてみた楽しさをわかりやすく話した方、高校時代の担任の先生の思い出を披露した方などなど。話し方講座をご担当下さった西尾優子先生、西山栄先生からご講評の際、細かなアドバイスをいただきました。優勝は大谷万美子さんの「ケータイ戦争」で、築山短期大学部長から賞状とトロフィー、副賞の図書カード5千円分が贈られました。準優勝は山崎由貴君と久家い

づみさんの2名、敢闘賞が岩野有希子さんでした。過去5年間でスピーチのレベルが最高だったとの感想が多く寄せられました。

(赤瀬 知子)



スピーチ風景

学内防災訓練を実施

本学では毎年、防災週間に防災訓練を行っており、今年も9月1日(木)午前10時より、博綜館を中心に防災訓練を行いました。当日は、事務職員からなる大谷大学自衛消防隊による現場確認、初期消火、通報、博綜館演習室からの避難誘

導訓練を行いました。

また、北消防署より、消火器・屋内消火栓の使用法の説明を受け、その後、実際に消火・放水を体験しました。

(総務課)



防災訓練の様子

全国父母兄弟懇談会開催

大谷大学教育後援会では、大谷大学・大谷大学短期大学部在学生の父母兄弟を対象に、毎年全国の数地区の都市において父母兄弟懇談会を開催しています。今年度は、静岡・大分・福岡の3会場で開催

し、来る12月2日(金)山口・12月3日(土)広島の2会場での実施を計画しています。

今年度はそれらに加え、10月1日(土)、本学を会場に全在学生の父母兄弟を対象とした「全国父母兄弟懇談会」を約320名の父母兄弟を迎えて開催しました。

第Ⅰ部の全体会では、佐藤亨教育後援会会長、木村宣彰学長の挨拶の後、引き続き大学の現況報告が行われ、本学に対するご理解を一層深めていただきました。全体会終了後、個別相談会ならびに響

流館を中心とした学内施設見学があり、個別相談会では、博綜館5階会議室において、学科・成績・進級・進路・就職、海外留学、学生生活、よろず相談の各コーナーを設置、参加された父母兄弟から多くの相談が寄せられました。

また、第Ⅱ部の懇親会は会場を京都ホテルオークラに移し、約90名の教職員の出席を得て、父母兄弟との和やかな懇談の場として有意義なひとときを過ごしました。

(校友センター)



個別相談の様子

同窓高校教員懇談会開催

去る8月8日に同窓高校教員懇談会を、博綜館第2会議室において開催いたしました。この会は、大谷大学を卒業し、現在高等学校で教鞭をとっておられる先生方から、高等学校の現状をお話いただくとともに、母校である本学の今後のあり方を共に考え、連携をより緊密なものとしていくことを

目的にして開催しています。今年度は16名の先生方をお迎えして開催することができました。

懇談会では、在学生・卒業生へのバックアップ、入学制度や学生募集のあり方など、今後の大谷大学の方向を見定めていくうえでの貴重なご意見を多数いただくことができました。(入学センター)



懇談会の様子

前期卒業式を挙行

9月30日(金)、2005年度前期卒業証書・学位記授与式が講堂において挙行されました。文学部48名、短期大学部4名の卒業生及び大学院修了生5名に、卒業証書並びに学位記が授与され、木村宣彰学長の告示に続いて、真宗大谷学園藤野護常務理事より祝辞が述べられました。

引き続き、多目的ホールにおいて卒業・修了と同窓会への入会を祝って、大谷大学・大谷大学短期大学部と大谷大学同窓会共催の「大谷大学卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会」が開催され、卒業・修了生、ご父母並びに教職員が一堂に会し、和やかなひとときを過ごしました。(総務課)



卒業証書授与風景

第104回開学記念式典並びに 初代学長清沢満之謝徳法要を挙行

10月13日(木)、第104回開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要が挙行されました。10月13日を開学の日とするのは、近代的大学として出発した1901(明治34)年の開校式が挙行された日より

ます。式典は讃歌、法要に続いて、永年勤続者の表彰と記念講演が執り

行われました。今年勤続30年を迎えられた教育職員の築山修道教授に表彰状と記念品が贈られました。

引き続き、元京都府立医科大学学長で、現京都府教育委員会委員長藤田哲也氏より「脳科学からみたこころと外部の世界」と題して講演を頂きました。(総務課)



藤田哲也氏

廣瀬幸市専任講師が、博士(教育学)の学位を取得

2005年7月、本学の廣瀬幸市専任講師が、京都大学から学位論文「意識・存在フィールドについての心理臨床学的考察 —イメージによらない心理療法理解—」によ

り、博士(教育学)の学位を取得されました。



廣瀬幸市専任講師

中学生「生き方探求・チャレンジ体験」受け入れ

8月29日(月)～8月31日(水)、京都市立衣笠中学校の生徒2名が学習活動の一環として「生き方探求・チャレンジ体験」学習に本学を訪れました。この活動は《生徒自らが社会に出て、体験活動や人とのふれあいを通し、より良い生き方を考え将来を切り拓く力や態度を育成するなど、多くの事柄を学ぶ機会》として実施され、中学校付

近の多くの事業所が活動に協力し、受け入れているものです。

本学では、2年生の濱田志弥君、山本捷馬君に大学の事務職員の仕事を体験してもらいました。初日は図書館にて目録作成や本の整備、2日目は企画室にて資料の作成など事務業務、最終日は、総務部総務課にてコピー機の管理などの業務に励みました。(企画室)



新着図書にラベル張付

大学生インターンシップ実習生の受け入れ

8月29日(月)から9月9日(金)まで大学コンソーシアム京都からのインターンシップ実習生の受け入れを行いました。本学では、これまでも実習生を地域の企業へ送り出してきましたが、迎え入れるのは初めてです。実習生は、同志社大学文学部第3学年の遠藤和徳さん。大学のゼミでは大学導入教育を研究しています。実習では教務部・教育研究支援部・企画室で、会議に出席したり、授業準備を体

験したり、図書館・博物館での実習・生涯学習講座の準備などとデスクワークから各教室での設備点検などの細かな作業まで多種多様な仕事を体験しました。多様なスタッフによって運営されている大学事務を経験し、机上の理論だけではなく自分の目指す進路へ向けてのヒントをつかむ機会を提供することができました。

遠藤さんの感想：「常に実践的に学びを活かそう」とする心構え

を持って取り組みました。今回の貴重な経験を今後の学生生活や就職活動に活かしていきたいと思えます。(企画室)



職員から仕事の内容を聞きとる遠藤さん(左)

自己推薦入試実施

去る10月8日、本学では2006年度入学制度の選抜試験の一つとして、初めて自己推薦入試を行いました。この自己推薦入試は、「本学の教育理念をよく理解し、学ぶ意欲を持った学生を受け入れる」という趣旨で実施しました。今年度は「便利で快適、でもなんとなく満たされない・・・そんなことを感じているみなさん、仏教を学んでみませんか」というフレーズのもと、仏教学科を希望する受験生を対象に、仏教学科と志願者の

間を結ぶ「ブリッジング(bridging)」、つまり「橋を架ける」入試として実施しました。出願資格は、本学で学ぶことに強い意欲を持ち、かつ大谷大学文学部仏教学科に専願の者で、高等学校卒業若しくは卒業見込みの者、又は卒業と同等以上の学力のある者で、社会人の方も可能としました。募集人員は10名。選考方法は、面接と自己推薦書(1200字程度)によって選考しました。面接では①当該募集学科で学びたい強い意欲はあるか。

②入学後の学習方向を明確に意識しているか。③本学において学ぶことのできる基礎的な学力を持っているか。④自己推薦書に出願の意図が十分に表現されているか。⑤質問に対する受け答えや自己アピールが明快にされているか。以上5つの事項と自己推薦書によって総合的に評価しました。受験生はそれぞれ緊張した面持ちで面接に望んでいました。今回は受験者31名、合格者は23名でした。
(入学センター)

DePauw University 日本研究プロジェクト研究会開催

10月17日(月)～19日(水)の3日間、DePauw University日本研究プロジェクト研究会が本学で開催されました。

このプロジェクトツアーの代表者Paul B. Watt教授は、本学の真宗総合研究所国際仏教研究班の嘱託研究員として、10年近く本学で共同研究や翻訳などに携わっておられます。DePauw Universityでは宗教学部アジア学科長を務められ、今回の研究プロジェクトを企画されました。

参加した9名の研究者はすべてDePauw Universityの教員で、その

専門分野は社会学、宗教学、西洋文化、音楽学、博物館、言語学など様々です。本学の滝口直子教授、Monica A. Bethe教授、Michael Pye教授らが研究会講師となり、歴史、社会、宗教、美術など様々な角度から日本への学術的アプローチがなされました。どの研究会でも熱心な意見交換や質問があり、研究者にとって大変意義あるものとなりました。また、京都や奈良の代表的な社寺仏閣や博物館見学も実施されました。研究者がじかに触れた日本文化を今後それぞれの研究分野に生かし、DePauw

Universityにおける日本理解がさらに進むことが期待されます。

最終日には、研究会講師や本学の教員との懇親会も和やかに開催され、この日本研究プロジェクトツアーが本学の研究者にとっても意義ある交流の場となりました。

(教育研究支援課)



研究会の風景

マナーキャンペーン実施

本学学生会中央執行委員会と五総部によって喫煙マナー(歩きタバコの禁止等)と学食の食器放置を対象としたマナーキャンペーンが7月11日(月)～7月13日(水)、10月10日(月)～10月12日(水)、10月14日(金)に学内で実施されました。キャンペーン期間中は、中央執行委員会と五総部の学生らが中心となり、学内放送での呼びかけやビラ配りが行われました。

学生のイメージ調査においても「喫煙マナー」「授業中の私語、携

帯電話」「学内食堂でのマナー」が悪いという調査報告が出ており、マナーにおける意識低下は問題となっています。

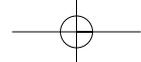
中央執行委員会と学生課の話し合いでは、部室棟の廊下を全面禁煙とし、タバコの自動販売機の撤去が決まり、学内でのマナー向上について様々な意見が交わされました。

中央執行委員会委員長の山本紘子さんは「ひとりひとりのマナー向上によって、大学は変わってい

くと思います。学園祭では、学外の方も多く来場されますが、学生のマナー向上とともに、地域住民の方々に愛される大学への協力をお願いします」と話してくれました。
(企画室)



ビラ配りの様子



夏休み期間に各種工事を実施

●部室棟エレベーターの設置

この度、部室棟にエレベーターを設置しました。9月30日(金)に工事完了、10月3日(月)から学生使用が開始されました。



部室棟エレベーター

●点字ブロックの延長敷設

以下の場所に点字ブロックを延長敷設しました。

- ①北門～響流館玄関
- ②響流館玄関～尋源館北入口
- ③尋源館南入口～博綜館北入口



点字ブロックの敷設

(総務課)

「学生向け情報提供システム」を利用してみよう！

本学では、学内の掲示板にてお知らせしている事項や、問い合わせの多い事項などに即時対応するために「学生向け情報提供システム」を稼働しています。学内外のパソコン・携帯電話から本システムを利用することで、下記のサービスを受けることができます。

学生の皆さん、「学生向け情報提供システム」を利用し、有意義な学生生活を送りましょう！

(科目等履修生・聴講生も全サービスを利用できます)

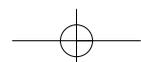


パソコン版「学生向け情報提供システム」TOP画面



携帯版「学生向け情報提供システム」TOP画面

	提供サービス	使用方法
パソコン版	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の情報提供 ・個人掲示板 ・授業情報 ・就職支援 ・時間別教室状況 	大学ホームページ (http://www.otani.ac.jp/) 上、「学生向け情報提供システム」ボタンからログインして下さい。
携帯電話版	<ul style="list-style-type: none"> ・休講情報 ・個人別時間割 ・個人掲示板 	携帯電話の「インターネット接続」より下記URLを入力するか、右のQRコードを利用し、ログインして下さい。 (https://www1.otani.ac.jp/m/) 
<p><注意>携帯電話が「SSL対応機種」である必要があります。また、通信料については個人負担となります。携帯電話版「学生向け情報提供システム」は、パソコン版の情報を一部表示するものです。掲載内容については、必ずパソコン版で確認するようお願いします。</p>		



学問のしおり

『国文学五十年』という岩波新書(1967年)がある。国文学の重鎮だった故高木市之助先生が晩年に自分の過ぎし方を口語りにされたもので、それが明治末から第2次大戦後まもなくまでの近代国文学研究の展開期とちょうど重なっており、国文学界の生き証人のことばとして歴史的価値がある。名古屋のご自宅で、二、三の弟子を相手に夜語られたもの、駆け出しの若造だった小生も、その末席に連なって耳を傾けた。白髪赤ら顔の先生の顔と、あの天井の高い書斎の薄暗い電灯と、鳩時計の鳴る音は今でも思い出す。あれからもう40年経った。

私が大学へ入ったのは1954年、国立とはいえ、戦後新設された大学で、一般教養時代の教室の建物は焼け残りの旧制高校の寮、天井や壁に黒々と墨書の落書きが消しきれずに残っていた。ついでに言えば学部の建物は旧陸軍の兵舎、学生の休憩室は馬小屋だった。いちおう塗り直してあって、もう臭いは抜けていたが、

一般教養の講義でいちばん失望したのはたまたま指導教官に選んだ先生の国文学の講義で、手抜きと思いつきが明瞭、時々休講したが、それは噂によるとガス会社の重役を兼ねていて、東京へ石炭を売りに行くためだということだった。いちばん面白かったし、人気のあったのは法学の先生で、沖仲仕からたたき上げて会社に入り、勉強し続けて教職に就いたという波瀾万丈の経歴の持ち主、株主総会の総会屋の戦術から、人間社会の裏の隅まで法学そっちのけで話してくれた。もう一人の法学の先生は法律遵守の塊みたいな気むずかしい先生で、憲法の講義をきちんとしてくれたが、点数でBをもらった苦い記憶しか残っていない。

じゃ、おまえはなぜ国文学なんかでメシを食うようになったのかと聞かれると高校時代の担任だった国語の先生の影響らしい。もっとも憧れたのではなく、馬鹿にして逆に引き込まれたのである。昭和20年代半ばの新制高校の普通科は、旧



国文学40年

村上 學

制中学の名残で、自由な雰囲気の中で生徒と先生が向き合っていた。あだ名のない先生はよほどの人格者か、変人で、今でも正式な名字よりはあだ名のほうが各先生の印象と結びついている。イタチ、オバア、軍事ラッパ、ドルトン、冷蔵庫……。そんな中で、授業もおよそ型破り、ありとあらゆる科目で悪童どもが数人、1番前の列に陣取って、先生に質問の山を浴びせかける。今から考えれば幼稚な質問だが、先生のほうも真剣に考えて答えてくれる。乏しい参考書しかない時代だから先生も生徒も一生懸命ものを考えなければならなかったのだ。それでいつの間にか国語(というより古典)の世界に引き込まれていたのである。

高校で作り上げていた国文学の概念をひっくり返してくれたのが、さっき挙げた先生ではなく、もう1人の教養の国文学の先生だった。講義の形式ではなく、10人足らずの学生と煙だらけの寒いストーブを囲んで近代文学の作品をどう読む

のか、討議の形で徹底的に読み方をたたき直された。旧制高校の教官で学問的な業績はほとんど無い先生だったが、あの半年ほどためになったことはない。

高木先生に出逢ったのは、学部に進学してからである。もう定年を過ぎたお年で、非常勤講師だったが、その万葉や古事記の講義は文学の自律性を説いて心を奮い立たされる内容だった。当時の文学部の学生はみなシニカルなポーズをとるのが常で、表面的にはけなすのが美学だったが、内実は心服する者ばかりだった。

先生が亡くなられて35年、いまあのお宅はどうなったであろうか。先生が心残りにされた、精神的な問題を抱えていたご子息はその後どうされたであろうか。このごろの国文学の荒廃のさまを思う度に先生のことばが思い出されるのである。

(むらかみ まなぶ 教授 国文学)

2005年度 海外研修を終えて

中国 東北師範大学短期中国語研修

8月1日(月)～8月29日(月)

参加学生数 8名(引率者2名)

○東北師範大学にて語学研修
(3週間)

午前 授業

午後 自由行動

課外活動

(太極拳体験、餃子作り等)

○小旅行

瀋陽旅行(1泊)

偽故宮観光

○北京にて文化研修(3日間)

紫禁城、万里の長城、

明の十三陵、京劇観劇

今回の中国研修は、8月1日から8月29日にかけての29日間、長春市の東北師範大学と北京で行われました。説明会前に起きた反日デモの影響のためか、参加した学生数は8名と少なく、かなりこじんまりとした団体となりましたが、参加した学生は全員意志が強く、しかも中国語のレベルアップと異文化理解を深めることを目的とする研修の意味をよく理解していました。こうした明確な目的意識と強い意志により、彼等は今回の研修からより大きな収穫を得た

ように思われます。

8月1日から8月24日までの3週間は、東北師範大学での研修でしたが、具体的には次のようなスケジュールで進められました。まず月曜から金曜の午前中は「中国

語会話」と「閲読」の授業で、それぞれ90分中国人の先生により行われました。当然のことながら授業はすべて中国語です。午後は「太極拳」「餃子作り体験」「一般家庭への訪問」「偽故宮見学」等の中国ならではの課外活動で、これらは中国の文化、生活などを理解する機会であると同時に習得した中国語の実践の場でもありました。こうした課外活動のない平日午後と土曜日曜はまったくの自由時間で、学生はそれぞれ自分の考えで、自分なりの有意義な時間を過ごしたようです。このほか小旅行もあり、一泊二日で瀋陽へ行き世界遺産にも登録された清朝時代の宮廷や張学良の旧家を見学しました。この小旅行はマイクロバス



世界遺産瀋陽故宮にて



東北師範大学での手作り餃子パーティー



初めての水餃子作りに挑戦。難しい！

が、自由に活動をする時間がとれ、それぞれ自分の足で歩きながら新旧二つの顔を持つ首都北京の現状を観察することができました。学生達にとって以上のような長春と北京2箇所での研修は中国の全体像を理解するのに大変役立ったようです。

今回東北師範での語学研修で最も強く印象に残ったことは参加した学生達の頑張りです。大谷の学生は宮城教育大学の学生や日本の社会人の方と一緒にのクラスに入ることになり、初めは慣れなかった

せいか、このままずっとやっていけるか心配していたようですが、クラスメートとの交流を通して強い刺激を受けたようで、一人一人が自覚を持って予習に力を注ぎ、少しでも先生の話す言葉を聞き取れるよう毎晩おそくまで勉強していました。こうした努力の結果、最終日の試験では満点の学生も含め全員80点以上の好成績を収めることができました。この経験は彼等にとって大きな自信につながるものと思います。

(渡部 洋)

で行ったのですが、途中多くの村や町を通ったことでバスの中からはありますが、都市部とは違う人々の暮らしを垣間見ることができました。

25日からの5日間は場所を北京に移しての研修でしたが、ここでは「万里の長城」、「明の十三陵」やその他市内の名所旧跡等を見学し歴史の見聞をおおいに広げました。さらに北京滞在中には2日間という短い時間ではありましたが



中国語での授業。みんな真剣です。

英国 ノッティンガム・トレント大学短期英語研修

8月5日(金)～9月1日(木)
参加学生数 19名(引率者2名)

- ノッティンガム・トレント大学にて語学研修(3週間)
 - 午前 授業
 - 午後 選択授業・自由行動
- 文化研修旅行
 - Lincoln Castle and Cathedral
 - Oxford
 - Galleries of Justice
 - Warwick Castle
 - Newstead Abbey
- 観劇
 - Miss Saigon
- エディンバラにて文化研修(3日間)



ロビン・フッド像と記念撮影



いざ エディンバラ城入城

本年度の英国夏季語学研修は、イングランド中部の町ノッティンガムにある、ノッティンガム・トレント大学で行われました。

ノッティンガム・トレント大学は街中の便利なところにあります。学生たちは3週間ホームステイをして大学に通いました。

月、火、木曜は午前2コマ、午後1コマの授業があり、水曜と金曜は午前みの授業でした。午前の授業は事前のプレースメント・テストによって分けられたクラスで行われました。午後の授業は選択授業で、イギリス文化、発音、文法、ビジネス英語などの科目から、毎週好きなものを選んで受けることができました。どちらの授業も、大谷大学の学生だけのクラスではなく、アジア、中東、ヨーロッパといった世界のさまざまな地域から来た人々と一緒に受けたので、大変よい経験になったのではないかと思います。

授業以外では、4人のソーシャル・オーガナイザーの方に大変お世話になりました。金曜と日曜以外は小旅行や何らかの行事を企画して下さっていて、ノッティンガムでの3週間を楽しく過ごすこと

ができました。小旅行では、リンカンの大聖堂と城、大学町のオックスフォード、ウォリック城、詩人のバイロンがかつて住んでいたニューステッド・アビーという屋敷などを訪れました。どれもそれぞれ印象深く、イギリスの長い歴史と伝統を肌で感じることができました。

最後に訪れたエディンバラはスコットランドの首都で、趣のある非常にきれいな町です。エディン

バラ城や美術館などを見学し、充実した研修の最後を締めくくることができました。

終わってみると、瞬く間に4週間が過ぎていったような気がします。イギリスに着いた当初は緊張して不安そうだった学生たちも、最後にはもうしばらくイギリスにいたいと思うようになっていたようです。この経験が今後の学習に生かされることを大いに期待しています。(浅若 裕彦)



アイス・スケート場にて

ヨーロッパ文化研修 <フランス>

8月28日(日)～9月10日(土)

参加学生数 27名(引率者2名)

○ストラスブール～オベルネ～ストリュートフ旧ナチス収容所～オーケーニヒスブルク城～コルマル～ライン河周辺～エギスハイム～シゴルスハイムの丘～リクヴィル～カイゼルスベルク～キンツハイム～エコミュゼ(以上アルザス地方)～ディジョン～ボヌ～クロ・ドゥ・ヴァージョ～ヴェズレー(以上ブルゴーニュ地方)～パリ

今回のフランス研修はドイツのフランクフルトから専用バスでフランスに入り、アルザスのストラスブールからスタートしました。アルザスは、これまで何度も二国間の争奪の地となり、苦難の歴史をたどってきた地方であると同時に、フランスでもとりわけ街並み



近くで見ると圧倒される！凱旋門



ボヌの「施療院」で

と自然の美しさが際だっている地域でもあります。中心都市ストラスブールは、EU議会議事堂が置かれて以来、ヨーロッパの首都としての先進性と活況も呈しています。

フランス文化研修のねらいの一つは、その基本的特徴である「対立と調和」ないし「多様性と統一」を実際に目で見て確かめてもらう

ところにあります。アルザスはこの意味で、「伝統と現代」「自然と人工」「異文化の融合」といった点で豊かな理解と示唆を与えてくれる地域です。初日からさっそく、いかにもアルザス的な、まるで童話の世界のような美しい街や村をいくつも訪れて散策を楽しみました。一方で、美しいシゴルスハイムの丘の脇に広がる無名戦士の墓や、旧ナチスの強制収容所ストリュートフも訪れました。絞首台もそのまま残る広大な収容所の光景に参加者はかなり強烈な衝撃を受けたようでしたが、かつてアルザスが強いられた苦難とその歴史的教訓の重みについて、改めて深く思いを致す機会ともなりました。

もちろん楽しい観光の部分が少なかったわけではありません。地上100メートルをはるかに越えるストラスブール大聖堂の頂上付近まで歩いて登ったり、ライン河の岸辺で数十羽の白鳥と一緒に(?)水遊びをしたり、河をほんの数メートル越えただけで、話される言葉も店の看板もがらりと変わる様子を体験してもらったりと、バスを使った移動型研修ならではの楽しみにも事欠きませんでした。

これはブルゴーニュに移っても



アルザスで多く見かけたコウノトリ

同様に、ディジョンやボヌでは、アルザスとはまた違う街並みや伝統の魅力に接しました。世界的に有名なワインシャトー、クロ・ドゥ・ヴージョでは、うち解けた雰囲気なかでカーヴ見学と試飲とを楽しみました。その美しい丘で世界遺産に登録されているヴェズレーでは聖マドレーヌ寺院を訪れ、日本人修道士のフレール・ダミヤン原田氏からパイプオルガンの演奏を聞かせていただきました。その荘厳な響きには皆感激して聞き入り、研修のなかでも特に忘れられぬ思い出となったようでした。

このあとの正味4日間のパリ滞在中には、市内観光やヴェルサイユ宮殿見学など団体行動も一部で



ブルゴーニュのクロ・ドゥ・ヴージョで

継続しましたが、この頃には皆おむねすっかりフランス生活にも慣れ、めいめい自立して自由行動を楽しめるようになっていました。幸い、全行程を通じて天候に恵まれ、一件の事故もなく無事に

フランス研修を終えることができました。参加者だけでなく引率者も共に楽しみ共に学ぶことの多かった研修でした。

(並木 治)

インド仏教遺跡研修

第1班 8月29日(月)～9月12日(月)

参加学生数 22名(引率者3名)

第2班 8月31日(水)～9月14日(水)

参加学生数 28名(引率者3名)

○仏跡研修：サヘート（祇園精舎）・マヘート（舎衛城）、ロンビニ（マヤ堂、アショーカ王石柱）、クシナガラ（涅槃堂、荼毘塚）、ヴァイシャリ（仏塔、アショーカ王石柱）、ナーランダ僧院跡、ラジギル（霊鷲山、王舎城、竹林精舎）、ブダガヤ（大塔、金剛宝座、菩提樹）、尼蓮禅河、サールナート（ダメーク塔、迎仏塔、大菩提寺）

○博物館見学：サールナート博物館、ニューデリー国立博物館

○インド文化研修：ニューデリーのインド門、ベナレスのガート（ヒンドゥー教徒の沐浴風景、火葬場、ヴィシュヴァナート寺院）、世界遺産タージマハル、アグラ城、マトゥラーのクリシュナ・ジャンマ・ブフーミ（クリシュナの生誕地）



成道の地ブダガヤでの集合写真



世界遺産タージマハルでの集合写真



クシナガラ涅槃堂での勤行

ブッダ生誕の地ルンビニ、成道の地ブダガヤ、初転法輪の地サルナート、入滅の地クシナガラという仏教の四大聖地、さらにサハート・マハート、ヴァイシャリ、ラジギルの仏跡研修を雨季にもか

かわらずすべて予定通り行うことができました。インド国内の移動は、貸し切りの大型バス2台で行いましたが、デリーからゴンダ、ブダガヤからベナレス、ベナレスからアグラへは列車を使いまし

た。鉄道の駅はさまざまな意味でまさに現代インドの縮図でした。

灼熱の大地インドをバスと列車で2週間近くも走りまわったわけですが、それでもインド北部のウッタル・プラデーシュ州とビハール州のほんの一部に過ぎません。インドは広くて暑い国です。ブッダは生存中、これらの地域を説法のために自らの足で歩いたわけですから、真理（ダルマ）を一般民衆に伝えようとする熱意が時代を超えて伝わってきます。バスや列車から見えるインドの自然は雄大です。どこまでも続く緑の大地のなかにいる牛の群れを見るとインドにいる実感が込み上げてきました。地平線に沈む夕日、ガンジス川から昇る朝日はとても大きく感動的でした。

例年通り各班1名ずつ看護師の方にも同行していただき、学生を健康面からサポートしていただきました。現地ならびに日本での多くのサポートがあってこそこの研修旅行であったと思います。関係者の方々に感謝とともにお礼を申し上げます。ありがとうございました。

(山本 和彦)



祇園精舎にて



聖なる河ガンジスの朝日

2005大谷大学紫明祭

テーマ：「^{そう か}想花～継がれし風の想いを込めて～」

期 間：2005年11月10日(木)～11月13日(日)

日	場 所	イベント名	時 間	内 容 概 略
10日(木)	野外ステージ	園遊会	16:30～20:00	2005年紫明祭の開催を告げるイベント イベント紹介 展示・バザー紹介など 「KOKIA」「PARADOX」によるスペシャルライブ
11日(金)	野外ステージ	競音会	11:00～15:30	軽音楽部・フォーク研究会・J A Z Z研究会、 各団体3バンドによるライブ
		フランチ	15:40～16:20	有志によるライブ
		M.1 R.1 グランプリ	16:30～17:00	有志によるお笑いライブ
		脳体革命～俺は間違っていない!!	18:00～20:00	新感覚クイズ and ゲーム大会
	講堂	V I V A ! 体育会	10:00～12:30	大谷大学体育会主催によるイベント
キャンパス内	スタンプラリー～大谷ぶらり～	11:00～17:00	バザーを巡るスタンプラリー (豪華商品の抽選あり)	
12日(土)	野外ステージ	僕は♪に恋をする～新たな出会い～ep.1	10:30～14:30	5団体の有志によるライブ
		大谷まるごと超決戦～三匹が斬る～	15:00～17:00	クイズイベント
		悶絶!?花よめ修業2005 ～めざせバージンロード～	18:00～20:00	女装コンテスト
	講堂	DEPAPEPE Live in 紫明祭	16:30～19:00	DEPAPEPEによるコンサート (有料)
	博綜館 第1会議室	大谷大学同窓会 ホームカミングデー	13:00～16:00	同窓会主催による同窓生の里帰り企画
	キャンパス内	ユ～もすくっちゃいなヨ!!	12:00～15:00	子ども向けのイベント・スーパーボールすくい・綿菓子の販売
	響流館メディアホール	第2回全国高校生 「人間が大好きです!」表現コンテスト	13:30～14:30	大谷大学主催の、映像やホームページによる コンテストの表彰式
13日(日)	野外ステージ	僕は♪に恋をする～新たな出会い～ep.2	11:00～17:00	5団体の有志によるライブ
		後夜祭 でえ～れはっっちゃけダンス	18:00～20:00	2005年度学園祭最後を飾るイベント ダンス大会&ダンスパフォーマンス
	講堂	池田秀一・古谷徹 トークショー	13:00～15:00	声優2名によるトークショー
	響流館メディアホール	宗教シンポジウム	13:30～17:00	テーマ：“生きる”ことー臨床の知からー 基調講演：大阪大学 鷺田清一教授 大谷大学 皇 紀夫教授 コーディネーター：大谷大学 谷口 奈青理助教授
11日～13日	博綜館ピロティ	OBSサテライトスタジオ	10:00～20:00 最終日イベント終了まで	大谷大学放送局による学内の案内・イベント
	キャンパス内	展示・バザー	11・12日 9:00～19:00 最終日 9:00～18:30	学生によるバザー・展示
	学内食堂	サントリー酒場	11・12日 16:00～19:45 最終日 16:00～19:30	体育会による酒場
	博綜館保健室	一タバコ被害ー 測定します	12・13日 13:00～16:00	呼気一酸化炭素濃度を測定し、 タバコによる害の程度をチェック

イベント・時間や出演者の変更等がありますので、ご了承がいます。

「^{そう か}想花～継がれし風の想いを込めて～」

第105回大谷大学学園祭実行委員会

委員長 福田 了樹



この度、第105回紫明祭が迎えられることを幹部の一人として、また一人の学生として大変嬉しく思っています。

本年度の紫明祭テーマ『想花』には、学園祭に関わるすべての学生や、教職員の方々、またこの学園祭のために援助していただいた様々な企業の方々のたくさんの想いが舞い集い、これらの想いが成功という大きな一輪の花へと変貌を遂げ、見事咲き誇って欲しいという願いが込められています。

私は今年度のテーマを掲げるにあたり、『風』という言葉の深さを知りました。知っている方もおられると思いますが、この3年間テーマには『風』という言葉が使われてきました。それぞれ『新風』・『風樹』・『風花』といい、これらの『風』には新しい風、樹

を育てるやさしい風、全ての方々の願いや熱意の込められた力強い風という意味を持っていたと思われれます。しかし、今年度のテーマには『風』という言葉が使われていません。なぜなら、この言葉が去年までで完結することが決まっていたからです。しかし、私にはこの『風』という言葉がただテーマだけに当てはめた言葉ではないと考えます。私にとって『風』とは、これまでの伝統を受け継いできた形のない存在です。同じ場所変わらず見守ってくれている『風』。これは私たちが受け継いできた想いと同一なのではないでしょうか。この想いを『風』に喩え、伝統ある紫明祭に込められた想いが今も絶えることなく継がれているということ。「～継がれし風の想いを込めて～」というサブタイ

トルに表しました。

今年も壮大な紫明祭が行われようとしています。学園祭とは学生達によって成される大きな行事です。それはこれまで学んできたものの発表の場であり、一人一人の輝きを見せる場であると私は思います。この輝きが一輪の花となり、学園祭が無事に成功することを祈っています。

園遊会・宗教シンポジウムのご案内

今年で105回目を迎える大谷大学紫明祭が11月10日(木)から13日(日)まで行われます。

10日(木)の午後4時30分からの「園遊会」では、サンクンガーデンの特設ステージにて各種イベントが開催されます。学生、教職員との交流の場として、是非、ご参加ください。

なお、当日には、北区長、北大路の商店街の方や近隣住民の皆さんをお招きし、ともに園遊会を楽しんでいただきます。

13日(日)午後1時30分からの宗教シンポジウムでは、テーマ「“生きる”ことー臨床の知からー」と題して大阪大学の臨床哲学ご専門の鷺田清一教授をお招きし、本学

の臨床教育学ご専門の皇紀夫教授とともにそれぞれの立場から基調講演をいただきます。

お2人の基調講演をもとに谷口奈青理助教授（臨床心理学）をコーディネーターとして、参加者の皆さんと一緒に考えるシンポジウムを行います。

総務課

大谷大学報恩講並びに歴代講師謝徳法要

大学報恩講並びに歴代講師謝徳法要を右記の日程で厳修いたします。みなさんお誘い合わせの上、ご参加下さい。

日時 11月26日(土) 午前10時
 場所 講堂
 (記念講演)
 講師 本学名誉教授 片岡 了
 講題 親鸞聖人の文体

年末・年始の日程

12月27日(火) 宗祖御命日勤行
 一事務休止—
 1月10日(火) 修正会
 1月10日(火) 授業再開

教務部

真宗大谷派教師前期・後期修練、教師補任申請の説明会について

後期修練ならびに教師補任申請(大学院・文学部・短期大学の修了・卒業年次生主対象)の説明会を11月中旬に行います。

また、前期修練(短期大学部第1学年、科目等履修生真宗大谷派教師資格取得コース生主対象)の説明会を12月中旬に行います。

受講予定者は教務部掲示板にて日時等を確認の上、説明会に出席してください。

修士論文・卒業論文の提出について

◎論文提出・題目変更締切日について

明年3月、文学部卒業見込み、大学院修士課程修了見込みの学生は、右記の一覧表で論文提出締切日等を確認の上、期日を厳守してください。

なお、題目を変更する場合は、所定の「題目変更届」を教務部窓口で受取り、指導教員の承認印を得た上で、右記の題目変更締切日までに教務部へ提出してください。

◎提出場所について

教務部窓口へ提出してください。ただし、修士論文の提出最終日および卒業論文提出最終日の2日間には右記の会場に提出してください。

— 題目変更・論文提出締切日時について —

種 別	題目変更締切日時	論文提出締切日時
修 士 論 文	12月5日(月) 午後5時	12月12日(月) 午後4時
卒 業 論 文	12月15日(木) 午後5時	1月11日(水) 午後4時

— 提出最終日の会場について —

種 別	最終日	会場
修 士 論 文	12月12日(月)	至誠館会議室(至誠館2階)
卒 業 論 文	1月10日(火) 11日(水)	多目的ホール (講堂棟3階)

(注意事項)

■論文等の提出方法や様式については『履修要項』や『卒業論文作成の手引』で確認してください。

■ワープロ使用や縦書・横書等の様式については、分野により制限事項が異なりますので、事前に指導教員と相談してください。

なお、ワープロを使用する場合で、所定の書式以外で提出するときは、題目変更締切日までに「ワ

ープロ書式所定外作成届」を提出してください。

■提出最終日の締切時間「午後4時」とは、題目確認・ページ数の記入・目次の作成・見返し等をすべて整え製本した状態で提出する最終時間のことです。午後4時の段階で、この要件を満たしていない論文は受領できませんので注意してください。

図書館

ガイダンスについて

- 試験に備えて、図書館の利用方法（図書の検索方法から書庫入庫、貸出手続きなど）について初級者ガイダンスを開催します。詳細は掲示やホームページ、学内放送にてお知らせしています。

開催予定日	開始時間	集合場所
11/7(月)	14時30分	図書館1Fカウンター
11/16(水)	14時30分	図書館1Fカウンター
12/1(木)	14時30分	図書館1Fカウンター
12/13(火)	14時30分	図書館1Fカウンター

*所要時間は50分です。先着10名とさせていただきます。

パソコンの貸出について

- 教育後援会からの寄贈により、パソコンが26台に増設されました。2階カウンターにて貸出の手続きをしてください。

冬期休暇中の図書の館外貸出について

- 通常の貸出手続きにより借り出している図書はすべて返却し、新たに冬期休暇中の館外貸出の手続きをしてください。手続きには利用者カード（学生証・職員証および利用証）が必要です。

手続期間

12月16日(金)～12月26日(月)

返却日

1月13日(金) 厳守

なお、図書館・総合研究室は、年明けの1月7日(土)、8日(日)、9日(月)に卒業論文提出直前のため特別開館します。

貸出冊数（通常貸出冊数と同じ）

科目等履修生・聴講生	5冊
文学部・短期大学部学生	10冊
大学院学生	
非常勤講師	
元教育職員・事務職員	20冊
教育職員・事務職員	

*詳細、変更は掲示・ホームページにてお知らせします。

進路就職センター

進路就職センターは、進学や就職など、進路全般についての相談窓口です。学年を問わず気軽にご相談ください。

■就職支援企画

－業界研究講演会－

(文学部第3学年・短期大学部第1学年・修士課程第1学年・博士後期課程第2学年対象)

2005年10～12月実施（詳細は掲示確認のこと）

就職希望者に対して「業界」の動向や展望、企業内での仕事などについての講演です。また、期待される能力などについても知ることができます。

■就職ガイダンス実施

－就職活動直前ガイダンス－

(文学部第3学年・短期大学部第1学年・修士課程第1学年・博士後期課程第2学年対象)

2005年11月26日(土)・12月17日(土)実施（詳細は掲示確認のこと）

本格的に始まる就職活動の直前に、総まとめのガイダンスを実施します。今まで参加できなかった学生はもちろん、参加していた学生も是非参加し、今後の活動に臨んでください。

－就職活動のビジネスマナー・リクルートファッション・Uターンについて－

(文学部第3学年・短期大学部第1学年・修士課程第1学年・博士後期課程第2学年対象)

2005年12月上旬実施（詳細は掲示確認のこと）

就職活動におけるマナーやリクルートファッション、またUターン就職をするにあたっての注意点なども説明します。

■就職活動報告会

(文学部第3学年・短期大学部第1学年・修士課程第1学年・博士後期課程第2学年対象)

日時：2005年11月30日(水) 16:30~18:30実施

場所：博綜館5階第1会議室

既に進路が決定している卒業年次の在学生から、どのように活動してきたかを聞く絶好のチャンスです。今後の活動のためにも是非参加し、有効な情報をキャッチしてください。

■セールスポイント創造合宿 (参加費：3,500円)

(文学部第3学年・短期大学部第1学年・修士課程第1学年・博士後期課程第2学年対象)

日程：2005年12月10日(土)~11日(日)

場所：湖西キャンパス「セミナーハウス」

申込期間：11月14日(月)~12月1日(木)

本格的に始まる就職戦線に向けて、どのようなことが重要なのかを実践的に体験できます。また、履歴書・自己PR・面接など、就職活動に必要な情報も入手できます。

第1学年からのサービス紹介 ~キャリア形成を考える~

~資格取得を目指そう~

◎マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト
(Word・Excel) 対策講習

第6回

仕事をする上でもっとも使用されているWord・Excelについての講習です。また別途申込にてマイクロソフト・オフィス・スペシャリスト検定試験も受験できます。

マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト対策講習
●第6回

日程		時間	定員	受講料	テキスト	受付期間
2月	8日(水)~10日(金)	10:00~15:40	30名	5,000円	3,780円 (学内書店にて購入)	1月16日(月) ~1月25日(水)
	13日(月)~17日(金)					

~難関試験に早期から備えよう~

◎公務員受験特別講習 演習講座

公務員希望者を対象に、採用試験に対するの受験対策講習を開講します。

今回の講習は、地方中級レベルから大卒警察官・大卒消防職員レベルに向けての政治・経済・一般知能分野(数的推理・判断推理・資料解釈)対策となります。受講学年は問いません。

公務員受験特別講習 演習講座

日程		時間	定員	受講料	テキスト	受付期間
2月	13日(月)~17日(金)	10:30~16:00	50名	5,000円	受講料に含む	1月16日(月) ~1月25日(水)

◎第2回教員受験特別講習<教職教養>

教員希望者を対象に、採用試験に対するの対策講習を開講します。

今回は、最新の全国採用試験から選んだ問題を解きながら第1回の学習を復習、深化、統合し、問題を解くとき横断的考察ができるようにします。受講学年は問いません。

教員受験特別講習 <教職教養>

日程		時間	定員	受講料	テキスト	受付期間
2月	8日(水)・10日(金)・13日(月)	14:30~16:00	50名	4,000円	500円	12月5日(月) ~1月23日(月) (~17:00)
	15日(金)・17日(日)・20日(水)					
	22日(水)・24日(金)					
3月	1日(水)・3日(金)・8日(水)	14:30~16:00	50名	4,000円	500円	12月5日(月) ~1月23日(月) (~17:00)
	10日(金)・13日(月)・15日(水)					
	20日(水)・24日(日)・27日(水)					
	29日(水)・30日(木)・31日(金)					

●日程、時間、受講料等については予定です。実施要項や掲示等に注意してください。

学生相談室から

新・学問のすすめ

「ところが癒される」と聞くと、それは普通の安心以上のものであるかのよう
に魅惑を感じ、究極のこのころのあり方に
違いないとだれしもが思いこむ。ところが
感情はこのころのなかでもっとも原始
的な現象で、未分化な私たちで奥底から
突きあげてくるから、その処理には手を
焼き、好ましいかたちに調整しようとす
る知的なはたらきとのあいだに悩みを生
じないわけにはいかないのである。知能
は学習と問題解決というすぐれた能力を
もっているから、悩みの調整にはうっ
つけのように思えるが、実際は思いもよ
らない不調を生じてしまう。悩みは知性
で解決しようとして、うまくいかないこ
とから生じた人間らしい現象だというこ
とができる。

学生相談室では、そういう大きな問題
にどういう助言をしているかを申し上げ
よう。人間だけが悩みをもつというお
かしな現象は、ほかならぬ知能がかかわ
りをもっているからである。じつは知能が
学習し経験しえたことを応用して、問題



解決に乗り出す対象はことごとく外界の
ものごとであり、精神内界は本来知能の
守備範囲ではなかったのである。自己意
識内容とくに感情の処理には一切手を出
さないで、いきなり学問にとりくむこと
をおすすめしたい。

(うさ しんいち)

宇佐 晋一

学生相談室の開室について

場 所	曜 日	相談室	学生相談員	相談日時
学生相談室 (博綜館1階)	月曜日	1 2	谷口奈青理	10時30分～16時00分
	火曜日	1 2	菊岡 千夏	10時30分～16時00分
	水曜日	1	宇佐 晋一 (神経科校医)	第2週・第4週 13時00分～16時00分
		2	佐賀枝夏文	10時30分～14時00分
	木曜日	1 2	讓 西賢 菊岡 千夏	10時30分～16時00分
	金曜日	1 2	菊岡 千夏	10時30分～16時00分



谷大エリア散策

第21回 つじいさん（居酒屋）

新町通六間下ルの、おでんとおばんざいが評判の居酒屋・つじいさんを訪ね、女将さんの辻井喜代子さんにお話を伺いました。大女将の辻井政枝さん息子宏昌さんとともにお店を切り盛りしておられます。



つじいさんの外観

—お店の看板に「昭和四年創業」とありますが

はい。昭和4年からやっていますが、もともと店は今の大谷大学の北門の場所にありました。烏丸北大路の東端から大垣書店さん、その隣が食堂、そしてうちでした。ちょうど北門の真ん中あたりでしょうかね。平成元年頃にこの場所へ移ってきました。

—谷大生はよく来ていましたか

開店当初から大谷大学の方にはよく来て頂いていました。学生さんが先生になられてもずっとお越し頂き、中にはもうお亡くなりになられた先生もいらっしゃるんですが、昔は先生も学生さんも一緒になって、わいわいと楽しく過ごされてましたね。

アルバイトにも大谷大学の方に来てもらってました。息子が小さい頃はアルバイトさんに肩車してもらって、学内でセミ捕りをさせてもらいました。その時の方々が今でも本山へ来られた際に立ち寄ってお顔を見せて下さいます。とても嬉しいです。空手部の人が多かったので試合をよく見に行きましたし、「学園祭でこんなお店を出してるから来て」と誘われると必ず訪ねましたよ。学園祭にはほとんど毎年行っています。

—人気のあるメニューは

うちのメインはおでんです。シューマイやゆば玉などオリジナルの具が人気があります。それと一品料理、おばんざいを揃えています。おばあちゃんの作るおからも大変人気の品です。

—おでんの仕込みについて

店が終わると具とおつゆに分けて、つゆはこして冷まし、冷蔵庫に入れて保管します。次の日のお昼過ぎ頃から仕込みを始めます。昨日のつゆに新しいだしを足し、少しずつ調味料を入れて味を整えていきます。具を煮込んでいる間中、しょっちゅう味をみては調整しています。

—大女将さんもずっとお店に立っておられるのですか

ええ。85歳なんですよ。仕込みはずっとやっています。店には毎日を出ていませんが、忙しいときは出てもらいます。店にいない日はお客さんが「おばあちゃんは?」と尋ねて下さいます。



お店の方々

—店内に通行手形がたくさん飾ってありますね

120~130個はあるでしょうか。旅行が楽しみで、行った先々で買い集めました。ゴールデンウィークはカレンダー通りに休ませてもらって、数ヵ所回りますから1回の旅行で3~4個は買って帰るんですよ。2回旅した土地の手形は新旧両方とも置いています。お客さんの出身地のものがあったり、旅行されたことのある場所のものがあったりしますと、とても喜んで下さってお話が弾みます。

また、額の書は知人の書家の方に

書いて頂いたもので「閑不徹」という言葉です。ゆったりしていることが良いという意味だそうです。以前は先々代の知り合いの萬福寺の住職さんに頂いた「酒道場」という書を飾っていたのですが、代替わりもしたことですし、昨年からこれに掛け替えました。

—大学との交流について

私が子供の頃は家のすぐ裏が大学でしたから、こっそり入ってよく遊んでいました。グラウンドに櫓を組んで商店街の盆踊りをしたり、キャンプファイヤーを囲んでフォークダンスをしたり、楽しい思い出がたくさんあります。

私たちにとって大谷大学は普通の大学ではなくて、とても親しい存在です。子供の頃の楽しいふれあいや関わりあいは、時間が経ってもいつまでも心に残っています。今の子供たちにもこんな交流があったらいいなと思うんです。例えば、音楽や児童劇や人形劇などのサークル活動をしておられる学生さんたちに、夏休みに地域の子供たちを集めてイベントをしていただくなど、いかかでしょうか。

昨年の「紫明近隣 昔の写真展」には伺いましたよ。近所の皆さんにも好評でした。写真展を見て久しぶりに訪ねて来て下さった方もおられました。先生がうちの写っている写真のコピーとパンフレットをわざわざ届けて下さり、お客さんにも見て頂いて盛り上がりました。こんな催しで気軽に大学に寄せて頂ければいいですね。

—ありがとうございました



評判のおでん

写真でふりかえる 大谷大学今昔



掘り出された学生のインク瓶と昭和11年の卒業論文



「彼岸の頃」二〇〇五年作 島中光亨



咲き誇っていた彼岸花

尋源館と彼岸花

佐々木 令 信

彼岸花は、秋の彼岸頃に一斉に花を咲かせることからその名がある。サンスクリット語で「赤い花」を表すマンジュシヤゲ（曼珠沙華）をはじめ、多くの別名をもち、全国の山麓や田や畑の土手に生える多年草である。葉がなくて、真っ赤な花だけが咲くのが印象的である。花が散った後、晩秋になって深緑色の葉が叢生し、翌年の春になって枯れるが、地中には球根が生きていて、九月になると再び花梗を出す。彼岸を迎える頃になると必ず赤く染まる田園風景に、秋の訪れを感じる人も多いのではないだろうか。

そんな彼岸花が、大谷大学の構内の草地を赤く染めるほどに咲いていたことが、卒業生の方々の思い出話の中によく出てくる。東西に長い赤煉瓦の尋源館、その南側の松林の緑の中に、真っ赤な彼岸花が群生して咲いていた様子は、現在の構内の様子からは想像できないであろう。その当時の様子を描かれたのが、大谷大学同窓会誌『無盡燈』の最新号の表紙をかざった、本学OBの日本画家・島中光亨画伯の絵「彼岸の頃」である。

往時の構内は緑が多く、昭和四十五年（一九七〇）頃には、百数十種の草木があったという。楠、ヒマラヤ杉、銀杏、山桜、菩提樹、金木犀をはじめ、枇杷、花梨、桃、夏蜜柑、それにポポウの木まであり、キジバトやヒヨドリ、ムクドリなどが見られ、鶯の声も聞かれたという。尋源館前の松林の地面を少し掘ると古いインク瓶が出てきたりしたという逸話からは、当時の尋源館の机が、インク瓶を置くへこみがついた檯の天板でつくられていた様子とともに、当時の学生生活、ひいては学問自体のあり方にまで、思いを馳せることができる。

彼岸花で染められた風景は、大学周辺が都市化し、大学自体もコンクリートやアスファルトで覆われ随分と様変わりした。現在は、構内南側の駐車場の近辺に数本だけ彼岸花が咲くだけになっている。デジタル化の進行の中で、学問のスタイル自体も大きく様変わりしつつあるが、大谷大学の彼岸花やインク瓶の想い出は、学問の原点を忘れさせないためのものではないだろうか。

(SOCIETY) れいしん 教授 日本仏教史)

研究室だより

幼児教育科研究室から

幼児教育科研究室から

○幼児教育科2年生は『卒業研究』2部作成し、1部は教務部に、もう1部（コピー可）は一般研究室に提出してください。提出締切は11月30日(水)午後4時【厳守】です。
○2年生が提出した『卒業研究』

の発表会を1月中旬に開催します。授業の一環として開催することですので、1・2年生とも全員出席してください。詳細は2号館1階の幼児教育科専用掲示板でお知らせします。

○く幼教フェスティバル2005を12月18日(日)に開催します。器楽合奏・ダンス・劇など学生自身によ

る手作りの発表会です。午前の部は11時から12時まで、午後の部は2時から5時までの予定です。詳細は後日幼児教育科の掲示板でご確認ください。

○現在、幼児教育科一般研究室の図書を借りている方は、1月16日(月)までに返却してください。

総合研究室から

11月、12月の研究室の開室は右記のとおりです。宗教行事、学園祭等により変則的な開室日もあるので、注意してください。2006年は1月10日(火)から開室します。

なお、開室日や開室時間の変更は、ホームページ、学内掲示板に掲載します。確認してください。

トピックス！

2006年

1月7日(土)
1月8日(日)
1月9日(月)

上記3日間は卒業論文提出〆切日直前のため総合研究室・図書館は特別開室を行います。

開室時間

10時～17時30分

11月

		1	2	3	4	5			
6	7	8	9	10 ^{*1}	11	12			
13	14	15	16	17	18	19 ^{*2}			
20	21	22	23	24	25	26 ^{*3}			
27	28	29	30						

濃い黄色は、響流館の休館日
黒字は、9時開室 19時30分閉室
薄い黄色は、10時開室 17時30分閉室

※1 学園祭期間中（11月10日～14日）は、日曜日を除き、土曜日扱いの開室（10時～17時30分）とします。ただし、11月10日は園遊会のため、15時に閉室します。

※2 公募制推薦入試期間（11月19日～21日）

※3 11月26日は大学報恩講のため、開室は13時、閉室は17時30分です。

12月

				1	2	3			
4	5	6	7	8	9	10			
11	12	13	14	15	16	17			
18	19	20	21	22	23	24			
25	26	27	28	29	30	31			

総合研究室からのお知らせ

総合研究室では、任期制助手による読書会、勉強会が開催されています。参加希望者は担当者まで

1	『清沢満之全集』（岩波書店）案内
2	学科・学年不問
3	金曜5限（隔週）
4	西本（真宗学） 総合研究室の西本まで
5	『清沢満之全集』（岩波書店）を読むに際し、配慮すべきテキスト上の諸問題について学びます。

1	『選択本願念仏集』輪読会
2	学科・学年不問
3	木曜6限（毎週）
4	西本（真宗学） 総合研究室の西本まで
5	法然の『選択本願念仏集』を輪読します。漢文、真宗学の聖教に親しむことを目的としています。テキストは『真宗聖教全書』第一巻。

1	浄土三部経講読会
2	学科・学年不問
3	毎週水曜4限（但し、真宗学会例会開催日は休み）
4	義盛（真宗学） yoshim@res.otani.ac.jp
5	浄土三部経を輪読します。経典を漢文で読み、親しむことを目的とします。テキストは『真宗聖教全書』第一巻です。

1	『往生要集』輪読会
2	学科・学年不問
3	月曜6限（毎週）
4	藤元（真宗学） 総合研究室の藤元まで
5	『往生要集』を素読します。テキストは『真宗聖教全書一』です。

1	『教行信証』の書誌に関する読書会
2	学科・学年不問
3	木曜2限（毎週）
4	藤元（真宗学） 総合研究室の藤元まで
5	赤松俊秀「教行信証の成立と改訂について」を、『教行信証』とつきあわせながら、読んでいます。

1	トレルチ『宗教ならびに宗教学の本質』読書会
2	大学院進学の希望の方・学年不問
3	木曜5限（毎週）
4	岡本・若見（哲学） a-okamo@res.otani.ac.jp
5	ドイツ語の文法を復習しながらテキストを精読し、院試に必要な語学力及び読解力を身につける。詳しくは「哲学科ホームページ」内の「哲学科からのお知らせ」まで。 http://www2.otani.ac.jp/tetsugaku/

- 1 会の名称
- 2 参加対象
- 3 日程・時間
- 4 担当者名
- 5 主旨・概要

※一部の読書会、研究会は演習室で開催しています。

学会だより

真宗学会

真宗学会例会

11月16日(水) 14時30分～

場 所 尋源講堂

発表者 小笠原 智秀

(博士後期課程第2学年)

中村 真人

(博士後期課程第1学年)

鸞音忌法要及び記念講演会（真宗学会後援）

11月22日(火) 13時～

場 所 講堂

講 師 幡谷 明 氏

(本学名誉教授)

講 題 曾我先生の教えに導かれて

修士論文中間発表会

11月中

※詳細は後日掲示にてお知らせします。

卒業論文中間発表会

12月中

※詳細は後日掲示にてお知らせします。

仏教学会

修士論文中間発表会

11月8日(火) 16時10分～

場 所 尋源講堂

研究発表例会

12月1日(木) 16時10分～

場 所 尋源講堂

発表者 小澤 千晶

(博士後期課程第3学年)

ロバート F. ローズ 教授

公開講演会

12月8日(木) 16時10分～

場 所 1200教室

発表者 小谷 伸男 氏

(放送大学富山学習センター所長)

※詳細は後日掲示にてお知らせします。

哲学会

研究談話会

11月9日(水) 16時10分～

場 所 マルチメディア演習室

発表者 新美 秀和 専任講師

講 題 「臨床描画法における
解釈行為について」

教育学会

公開講演会

12月8日(木) 12時50分～

発表者 中串 かおり 先生

(大阪市立聾学校教諭)

講 題 聾教育の実践について(予定)

※詳細は後日掲示にてお知らせします。

中国文学会

公開講演会

12月中

※詳細は後日掲示にてお知らせします。

出版物紹介

『いのちみな生きるべし』

中川皓三郎 著
真宗大谷派宗務所出版 刊
(2005.3) 77頁



『親鸞聖人の信念—野に立つ仏者』

寺川俊昭 著
法蔵館 刊
(2005.6) 121頁



『「往生浄土」ということ』

小川一乗 著
法蔵館 刊
(2005.7) 49頁



『ブッタのターミナルケア』

吉元信行 著
法蔵館 刊
(2005.8) 147頁



『韓国の歴史と安東権氏』

鄭早苗 著
新幹社 刊
(2005.8) 510頁



『さぬき市の文化財』No.2

豊島 修 分担執筆
さぬき市文化財保護協会 刊
(2005.3) 18頁

『文化人類学入門—古典と現代をつなぐ20のモデル』

山下晋司 編著
田辺繁治 分担執筆
弘文堂 刊
(2005.4) 284頁

お詫び

前号の『大谷大学広報夏号』の中で誤りがありましたので、次のとおり訂正いたします。

P.30 写真でふりかえる大谷大学今昔

(誤) 大学令にもとづく大谷大学設立認可の後、学生改革

(正) 大学令にもとづく大谷大学設立認可の後、学制改革

「大谷大学広報05—冬」発行のお知らせ

「大谷大学広報05—冬」の発行を1月に予定しています。さまざまなエッセイや連絡事項などを掲載する予定です。ぜひお読みください。広報は次の場所に置いてありますので、ご自由にお取りください。

①博綜館ピロティエ（博綜館入口横） ②学内食堂 ③各研究室 ④至誠館（学生課カウンター前） ⑤1号館1階 ⑥2号館1階
また、大谷大学ホームページから、バックナンバー含め広報の閲覧が可能です。

http://www.otani.ac.jp/annai/shuppan/d_kouhou.html

大谷中学校・高等学校からのお知らせ

■2006年度 大谷中学・高等学校入試相談会(最終回)のお知らせ

大谷中学校——12月10日(土) 9時より } 本校講堂にて一括説明、
大谷高等学校——12月10日(土) 13時より } その後図書館にて入試相談を受付ます。

■2006年度 大谷中学・高等学校生徒募集(入学試験)について

詳細は本校渉外部まで問い合わせてください。
(075-541-1317)

大谷中学校(共学)
募集人員 120名

入 試 日
S入試 1月14日(土) 午前9時開始
(国語・算数・作文)
A入試 1月15日(日) 午前9時開始
(国語・算数・理科・社会)
合格発表日
S・A共に1月17日(火) 午前10時
(校内掲示・ホームページでも公表)
出 願 受 付
郵送出願なら12月21日(水)~26日(月)
窓口出願なら1月5日(水)~6日(金)
受 験 料
S・A共に2万円ですが、両願の方
で同時出願なら3万円です。

大谷高等学校(共学)
募集人員 300名(バタビア・インテグラル両コース併せて)
入 試 日
2月10日(金) 午前9時開始
(国語・社会・数学・理科・英語)
合格発表日
2月13日(月)
受験生宛に可否結果を郵送します
(2月14日正午、ホームページでも公表-受験番号のみ)
出 願 受 付
1月25日(水)~1月28日(土)
9:00~16:00(本校事務室または郵送)
受 験 料 2万円

大谷高等学校知進寮生徒
募 集
(バタビア・インテグラル両コース併せて)
募集人員 男子5名(出願に本校所定の条件あり)
詳細は渉外部まで問い合わせください。
入 試 日
1月15日(日)
午前9時開始(英語・作文・面接)
出 願 受 付
1月4日(水)~1月6日(金)
受 験 料 2万円
合 格 通 知
本人宛に郵便でお知らせします。

九州大谷短期大学からのお知らせ

■2006年度 入学試験要項

1. 募集学科・定員

[全学科 男女共学]

- 仏教学科 10名
- 表現学科 50名
演劇放送フィールド
情報司書フィールド
- 幼児教育学科 100名
幼児教育コース
児童福祉・心理コース
- 福祉学科 50名

2. 入試日程

入試区分	出願期間	試験日・会場	合格発表
公募推薦 自己推薦 社会人 長期履修 (第1次募集)	10月24日(月) } 11月4日(金)	11月11日(金) 本 学 ----- 11月10日(木) 北九州・佐世保 大分・鹿児島	11月18日(金)
公募推薦 自己推薦 (第2次募集)	12月12日(月) } 12月20日(火)	12月26日(月) 本 学	12月28日(水)
一般入試A 社会人 長期履修 (第2次募集)	1月16日(月) } 1月31日(火)	2月4日(土) 本 学	2月9日(木)
一般入試B 社会人 長期履修 (第3次募集)	2月20日(月) } 2月28日(火)	3月4日(土) 本 学	3月9日(木)
一般入試C 社会人 長期履修 (第4次募集)	3月15日(水) } 3月24日(金)	3月29日(水) 本 学	3月30日(木)

3. 入試科目

入試区分	学 科	科 目
公募推薦 自己推薦 一般入試	全 学 科	①作 文 ②面 接
社会人入試 長期履修生入試	全 学 科	①面 接

■保育士資格取得者対象

1. 募集学科・定員 [男女共学]

- 専攻科・福祉専攻 30名
 - 3. 入試科目 ①作文 ②面接
- 詳しくは九州大谷短期大学広報室
(TEL 0942-53-9900)へ、
お問い合わせ下さい。

2. 入試科目

	出 願 期 間	試 験 日	選考会場・日程	合格発表
第2次募集	2006年1月16日(月) ~1月31日(木) <必着>	2月4日(土)	本 学 作文 9:00~10:00 面接 10:10~	2006年 2月9日(木)
第3次募集	2006年2月20日(月) ~2月28日(火) <必着>	3月4日(土)		2006年 3月9日(木)
第4次募集	2006年3月15日(水) ~3月24日(金) <必着>	3月29日(水)		2006年 3月30日(木)

世界は、ことばによって分節化されている、という「常識」がある。簡単に説明すると（説明が必要なら「常識」とはいえないが）、いろんな筆記具の入っている筆入れからボールペンと鉛筆を区別できるのは、鉛筆とボールペンということばがあるからである。鉛筆とボールペンでは形が違うが、それぞれを分けることばがなければ、鉛筆を取ってくださいといってもどっちを取ればいいかわからない。鉛筆とボールペンということばの意味が分かっているならば、見分けることができる。しかし、ことばを持たない者には、形の違う物体があることしかわからない。

いので、動物と同じである。つまり、人間は、世界のあれこれを言葉で分節化する（区分する）ことで、文化的な生活を可能にしている、というのである。

ことばが区別するのは、べつにモノでなくてもかまわない。新しい考えが生まれたら、今までにはない考えだと区別できるように、ことばを与える。新しく工夫することもあれば、建前のことばを流用することもある。もっともこの場合は、しばしば誤解が生じる。

大昔にはうれしくても悲しくても、強く心動かされると「あはれ」といった。高校の古典で教わったね。現代では、意味が

限定されて、哀しみ、あわれみの意味で使われている。一方、これとは逆に、意味の拡大コースに進路をとりそうなのが「ヤバイ」である。

今年の1月、卒業をひかえた学生たちと某中華料理店に入った。待つことしばし。注文の料理が出てきたとき、だれかがヤバと声をあげた。ヤバはヤバイの省略形である。別にアブナイものは注文していない。というか、料理店では注文しても出てこない。運ばれてきたのは、トリのカラアゲ、野菜サラダに、海老シューマイである。きいてみると、ヤバというのは、うまそうという意味だった。すば

話題の広場 SQUARE

ヤバイ料理を立ち上げる

藤本芳則



絵 内山智廣

らしい、カッコいい、というよくなときに「ヤバ」と叫ぶ(?)のだそう。河豚(フグ)のように、どちらともとれる場合は、まず、「ヤバ」と言う前から、補足説明をするというから手間のかかることばである。

かようにアブナイとは逆向きの、評価を表わす「ヤバイ」が、勢力をもちつつある。身に危険が及ぶほどにうまそうだ、というわけである。おそろしいほど美しい、というのに通じる感覚かな。今キケンなことはありえないのだが、そのありえない程にうまそうだ、ということだろう。そういえば、「ありえない」はかつてギャルの愛用語だった。このような用法は、インターネットはありえないほど便利だが、

同時にウイルスの危険がある、というところから生じたものである……冗談ですよ、本気にしないように。ただし、意味の守備範囲の変化は、世界の見方とかかわっていることは確かである。

このような「ヤバイ」の使い方を、ことばの「乱れ」とオトナは批判する。そのオトナも「ビミョウ」は結構使っているらしい。「正しい日本語を守る会」を立ち上げました、の「立ち上げる」もよく耳にする。「立ち上がる」だと自動詞だが、それを他動詞に使うのは「ありえない」から、少し前の辞書には収録していない(「広辞苑」第四版には「立ち上がる」しかない)。一説によると、パソコンの起動を表

すbootが語源らしい。多くのオトナが愛用するのは、「設立する」だけでは、伝えられないニュアンスを感じるからだろう。「立ち上げる」ということばで、世界を分節化している(関係を結んでいる)のである。

新しいことばや「乱れ」たことばが、世界をどんなふうに分節化しようとしているか気になりますね。

(ふじもと よしり)
助教授 日本児童文学)